

今年は今下山遺跡にとって記念すべき年

芦屋に先住した遠い過去の人々の暮らしや社会を雄弁に物語る会下山遺跡は、昭和31年に発掘調査が開始されてから今年で60年の歳月が経ちます。また、平成23年に、わが国の歴史にとって欠かすことができない国史跡に指定されてからちょうど5年が経過します。

これを記念すべく今年は今下山遺跡に関連するさまざまな事業を計画しています。3月には復元高床倉庫の屋根の茅の葺き替えを実施し、平成28年度にはシンポジウムや遺跡見学会等を開催する予定です。

これらの事業の開催については、「広報あしや」で随時ご案内させていただきますので、皆さん、ふるってご参加ください。



市内小学校の社会見学

国指定史跡会下山遺跡を訪れてみよう

会下山遺跡は、三条町の山手中学校の裏山にあります。この遺跡は山や森の自然の中に溶け込んでおり、市街地化が進んでいる阪神間では他にこのような自然豊かな国指定史跡はありません。

さらに弥生時代の高地性集落を体感できる遺跡は、全国的にもそんなに多くありません。会下山遺跡はいつでも自由に見学できますが、行き方は阪急芦屋川駅から北西方向へ約15分、住宅地を歩くと、ハイキングコースの登り口に着きます【写真5】。そこにあるフェンスの入口(鍵はかかっています)を開き、ジグザグのハイキング道を8分ほど登っていくと、会下山遺跡に到着します。急な山道を歩いているうちに、なぜ弥生人がこんな不便な場所に高地性集落を作ったのだろうか、疑問が湧いてくることでしょう。しかし、遺跡に到着し、そこからの眺めのすばらしさを目の当たりにした時、この良好な眺望こそ彼らが求めていたものだと思えます【写真6】。

現在の会下山遺跡には、高床倉庫1棟を復元しています【写真7】。また、6棟の竪穴住居跡は発掘調査後、埋め戻さずに芝生を張って整備しています【写真8】。市役所北館4階にある生涯学習課の窓口では、見学に最適なパンフレット「国史跡 会下山遺跡」【写真9】を配布していますので、遺跡を訪れる際には、ぜひ、ご利用ください。



【写真7】復元された高床倉庫



【写真8】竪穴住居跡。芝生を張って整備しています。



【写真9】市役所北館4階にある生涯学習課の窓口で配布しています。



【写真6】遺跡の中で最も高い場所です。標高200m。



阪急芦屋川駅から北西方向に徒歩約15分で会下山遺跡入り口(芦屋市聖苑入り口のすぐ東側、左の写真参照)に着きます。入り口から登山道を徒歩約8分で会下山遺跡に到着します。

GATV 広報番組ガイド

1月後半	芦屋市広報番組 あしやトライあぐる	放送時間(15分)
オープニング	西浜公園	① 9:00
トピックス	芦屋市ガイドマップができました	② 12:00
		③ 15:00
特集	芦屋市に新たな防災拠点「誕生」～芦屋市庁舎東館～	④ 18:00
		⑤ 22:30
お知らせ	第52回モンテペロ市学生親善使節を募集	※DVDの貸出可
エンディング	芦屋の四季	

■広報番組「あしやトライあぐる」は、11ch(一部地域を除く)でご覧ください。
 ■番組に関する問い合わせ 広報国際交流課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ J-COMカスタマーセンター ☎0120-999-000(午前9時～午後6時)

谷崎潤一郎記念館の催し

【谷崎館講座】真田三代物語
 ■日時 1月28日～(毎月第4木曜日)午前10時30分～正午 ■会場 講義室
 ■内容 NHKで放送が始まった大河ドラマ「真田丸」。大坂の陣で豊臣方の武将として活躍した真田幸村とその一族が、文学作品でどのように描かれてきたかを講師が詳しく解説します。真田家の武将たちと配下の忍びについて学びましょう。 ■定員 20人 ■講師 作家・柳谷郁子氏 ■受講料 3ヵ月6,300円 ■申し込み 下記へ

【開館時間】午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
 【1月の休館日】18日・25日(月)
 【観覧料】一般300(240)円、大高生200(160)円、中学生以下無料※()内は20人以上の団体料金※高齢者(65歳以上)および身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちのかたとその介護のかた1人は各当日料金の半額

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館
 ☎23-5852/FAX38-3244(〒659-0052 伊勢町12-15)

公民館の催し

バレンタイン・クッキー作り
 ■日時 2月14日(日)午前9時45分～正午 ■会場 市民センター 料理室
 ■内容 色々なかたで抜いてからクッキーを焼きます。焼き上がったクッキーに字を書いてラッピングをして出来上がり。クッキーが焼き上がる間に、お子さまランチを作って試食。 ■対象 小学生・20人 ■材料費 500円 ■申し込み 事業名・住所・氏名・電話番号・学年を記入の上、はがきかファクスで2月1日(月)までに、下記へ。

公民館講座 日本人の源流・神話を訪ねて～古事記はこんなに面白い
 ■日時 2月20日(土)・27日(土)午前10時～11時30分 ■会場 市民センター 401室
 ■テーマ ①本日は奥深い「因幡の白兔」②女神の国を生んだ「ヤマタノオロチ退治」 ■講師 産経新聞神話取材班 キャップ・安本寿久氏
 ■受講料 800円 ■申し込み 講座名・住所・氏名・電話番号を記入の上、はがきかファクスで2月8日(月)までに、下記へ。

問い合わせ 公民館 ☎35-0700/FAX31-4998 (〒659-0068 業平町8-24)

公園緑地課の催し

2年前に仲ノ池の外来種の駆除を行いました。その調査結果を通して、展示やセミナーで自然環境を考えたいと思います。

【仲ノ池の自然環境(在来種と外来種)展】
 ■会期 2月3日～15日 ■会場 市民センター3階展示場 ■内容 パネル展示(仲ノ池の生態系の変遷・外来種の与える影響)・外来種のはく製の展示

【仲ノ池の自然環境を考えるセミナー】
 ■日時 2月6日(土)午前10時～11時30分 ■会場 市民センター401室 ■テーマ 外来種がたけ池の生態系に与える影響について ■定員 先着100人 ■講師 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員・三橋弘宗氏 ■申し込み 直接会場へ

問い合わせ 公園緑地課 ☎38-2065

会下山遺跡

発掘調査60周年・国史跡指定5周年を迎えて

問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115

今年は今下山遺跡の発掘調査の開始から60周年、国史跡の指定から5周年の記念すべき年となります。今号では、会下山遺跡の出土品や、それらを使って活動した弥生人たちの暮らしを想像しつつ、会下山遺跡についてひとといてみたいと思います。

会下山遺跡の発見から国史跡の指定まで

弥生時代は米づくりを生業とし、人々は水田に近い平野に集落を営んでいました。しかし、弥生時代中期の中ごろ紀元前2世紀ごろから、六甲の人々はなぜか山頂や山腹などの高い場所に高地性集落を築き、暮らし始めました。会下山遺跡はその典型で、地元では戦前から土器の出土が知られていました。昭和29年に山手中学校の生徒が学校の裏山に植物実習園を作るために登山道を切り開いていた時に土器の破片が出土していることに気づき、発見されました。

高地性集落の性格をめぐる論争

会下山遺跡は大阪湾を囲む広い地域を遠くまで一望できる、標高150×200メートルの尾根の上を中心に広がっています。昭和31年から始まった本市教育委員会の発掘調査では竪穴住居跡をはじめ、祭場跡、高床倉庫跡、墓場跡など、さまざまな生活跡が数多く発見されました【写真1】。その調査成果は高く評価され、昭和35年には兵庫県史跡の第1号に指定されました。その後歴史教材園として整備され、郷土の歴史学習の場として多くの市民や登山者に親しまれ、現在に至っています。

高地性集落は水田が営まれた平野部ではなく、水稲農耕はもろろんのこと、生活するのにも不便な標高の高い山の上や急な斜面地に次々に築かれました。しかし、その場所は、交通の要を見渡せる場所でもありました。六甲山地だけでも実に20ヶ所以上で高地性集落跡が見つかっています。山地に集落を構えるというこの不思議な現象については、考古学界で数多くの説が出されています。例えば、会下山遺跡で生活が営まれた紀元前2世紀から紀元1世紀までの約300年の間、人々がずっと住み続けたと考える説もあれば、この間に山地と平野を何度も移動して、人の住んでいなかった時期を想定する説もあります。大変閉鎖的な村であったととらえる説もあれば、滋賀県や香川



【写真1】尾根上に運んで見つかった集落跡(昭和30年代)



会下山遺跡から出土した弥生土器

会下山遺跡から出土した青銅製漢式三翼鎌(市指定文化財)

会下山遺跡には、多数の出土品があります。それらの中で、最も早くから運ばれてきた物は、中国の秦(紀元



【写真2】青銅製漢式三翼鎌(現存長4.4cm 市指定文化財)

前221年)紀元前202年)もしくは前漢(紀元前202年)紀元8年に製作された鎌である青銅製漢式三翼鎌(市指定文化財、写真2)です。これは全国でも数例しか出土していない、大変貴重なものです。中国大陸から会下山遺跡に直接伝来したのではなく、中国と盛んに交流していた北部九州を中継して、瀬戸内海ルートで大阪湾地域に運び込まれたと考えられます。



【写真3】さまざまな鉄の道具

また、弥生時代中期の終わりから後期の初期(紀元1年前後)は、道具が石から鉄に急速に置き換えられていく時期で、会下山遺跡でも鉄の斧やノミ等の鉄製工具や、鉄鎌等の鉄製武器が出土しています【写真3】。

会下山遺跡は市民の大切な宝

会下山遺跡の昭和30年代の発掘調査には、山手中学校の生徒や先生も参加し、実りある体験をした遺跡でもありません【写真4】。発掘調査に参加した中学生たちは、卒業後、歴史研究団体「芦屋の芽グループ」を結成し、文化財の調査研究や保護活動を精力的に行い、市の歴史を明らかにし、数多くの文化財を守ってきました。

このように発見から現在に至るまで、会下山遺跡は多くの市民によって守られてきました。史跡は私たちの祖先がこの地で生きた証です。そして、本市にとっては何千年の長い時間を経て今に残ったかけがえのない宝とすることが出来ます。



【写真4】会下山遺跡を発掘する調査員と山手中学校の生徒(昭和30年代)